

びわ湖ブルー預金に
お預入れいただいた皆さまへ
心をこめて

あ
お
の
わ

日本最大の湖であり、滋賀の誇りであるびわ湖。
その豊かな自然は、私たちの暮らしや産業、
そして、未来を支えています。
皆さまの大切な預金を通じて
これから、びわ湖の環境保全や
持続可能な地域づくりに役立てていきます。
滋賀銀行は地域金融機関として、
皆さまとともに、びわ湖のある暮らしを
未来へつなぐまいります。

びわ湖がある未来に向けて

びわ湖を守っていくうえで鍵となるのは、現状を可視化する緻密なデータです。
良かれと思って続けていた保全活動が、実はマイナスに作用しているということもあり得ます。
びわ湖やびわ湖に生息する動植物の危機を察知するべく、
滋賀銀行は龍谷大学、東近江三方よし基金と協力し、ある指数を開発しました。

それが…

生物多様性保全総合指数 = BCCI

Biodiversity Conservation Composite Index

生物に対する考え方は人それぞれで、意見が分かれることも多くあります。
しかし、BCCIは自然のデータに基づいて算定されるため客観的です。
保全や駆除をするうえでの、1つの判断材料になります。

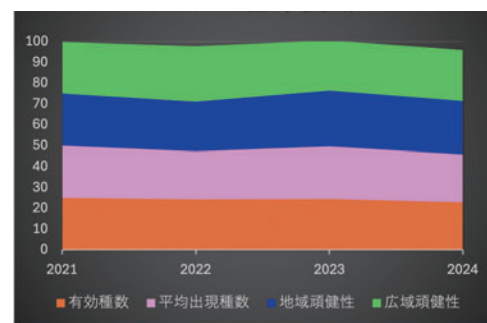
BCCIを構成
する情報は？

BCCIはびわ湖全体での有効種数、地点当たりの平均出現種数、地域頑健性
(狭範囲環境かく乱への耐性)、広域頑健性(広範囲に生じる環境かく乱への耐性)
で構成されています。これらを算定するのは、生き物の種類を特定する環境
DNA調査です。その調査は2021年から毎年、びわ湖内の100地点で行われています。

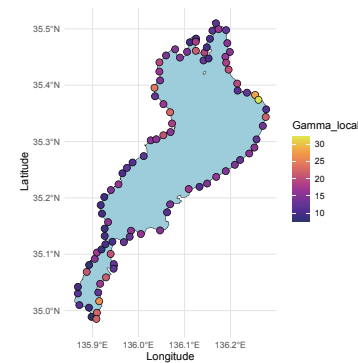
びわ湖の生物多様性は、おおむね維持されています

BCCIの経年変動を見ると、2021年から
2024年にかけて、全体の数値が上昇と
下降を繰り返しています。数値は大きく
なれば回復、小さくなれば悪化を示し
ているため、びわ湖の生物多様性はお
おむね維持されていると考えられます。

BCCIの経年変動



びわ湖全体の多様性への貢献度指標
(貢献度大→保全優先度大)



本冊子は、滋賀県琵琶湖環境科学研究センターおよび学校法人龍谷大学の協力のもと滋賀銀行が作成しました。

滋賀銀行は、びわ湖を未来へつなぐために、
その礎となる活動を支援してまいります。

びわ湖の素顔

The Real Lake Biwa

私たちがびわ湖にできることは何か。
まずは、びわ湖を知るところから。

びわ湖の誕生

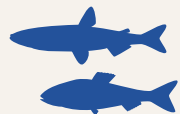


びわ湖が誕生したのは

約**400**万年前

現在の三重県伊賀市付近にできた大山田湖が始まりです。長い年月をかけながら、形を変えて移動し、約40万年前に現在の姿になりました。

びわ湖の生き物たち



びわ湖とその周辺に暮らす動植物は、微生物を含んで

3100種以上

そのうち**62**種はびわ湖にのみ生息しています。

自然の恵み



びわ湖の水は、米や肉、魚といった食糧、水を用いる製造業などに恵みをもたらしてきました。また、

年間**56**億トンもの水を、京都府や大阪府へ供給しています。

自然の豊かさが低下する
現実には直面しています。

- 湖の整備が行き届かず、生態系が弱体化
- 外来種の増加による、在来種の減退
- 水質の変容に伴う、生態系バランスの乱れ
- 水害対策や過度な利水による、水辺環境の劣化

【オオバナミズキンバイ】

駆除活動および監視により、
過剰な増殖を抑制

航行障害や悪臭などの被害は
残存

マイクロプラスチックによる汚染

【びわ湖固有種】

ニゴロブナやホンモロコといった
びわ湖固有種が
回復傾向

【水質】

濁りの原因となる有機質は、
まだ改善の余地はありますが、
水質汚濁の基準値より回復

【エビ類】減少



【ブルーギル】

漁業者による捕獲や電気ショッカーによる積極的な駆除により
減少

【ヌートリアの生息・分布】

1930～1940年代に日本で毛皮・食用を目的に持ち込まれたヌートリアが、野生化。河岸に沿ってびわ湖畔へ到達し、繁殖したと考えられています。

びわ湖では、2010年頃から目撃され、現在は全域で確認。ヨシが食料となることから、**ヨシ帯の分断が懸念**されています。

【迫る在来種への脅威】

瀬田川で繁殖するチャネルキャットフィッシュ（通称：アメリカナマズ）の流入が増加し、在来種が駆逐されるリスクが高まっています。

【アユ】減少



【セタシジミ】減少



【ヨシ帯】

ヨシ帯は増加傾向でありながら、魚類や鳥類の産卵場所・生息場所として生態系保全機能に着目した保全が検討されています。

【河川への遡上阻害】

人工物の設置により遡上による産卵が不可能

【カワウ】

住宅地付近での営巣による悪臭が顕在化。水産物への被害も起きています。

